



審議内容

(発言者、発言内容、審議経過、結論など)

1 開会

○委員長挨拶

2 議題

○本市が進める協働事業について

—資料1に沿い、事務局より詳細説明—

(石田委員長)

説明を受けた協働に関する事業に対して意見はあるか。

(津上委員)

私は以前に市民活動相談会に参加したことがあった。活動を続けていき、軌道に乗ってからは参加しなくなったが、最初どうしたらいいかわからないときは助かった。相談会がなくなってしまったのは今知った。

(石田委員長)

最近相談件数が少なかったということだが、市役所でやっていることを知らない人も多いと思う。市役所に相談に行くということは、市に対して近しいものを感じていないと行けないと思う。広報に載っていても、目に入るかは中々難しいところもある。

(柳委員)

市役所は一般市民にとっては敷居が高いというか、市役所にはたくさんの部署があると思うが、どんな仕事をしているのかなかなか見えない部分がある。

(石田委員長)

用事がないと行きにくいというのはあると思う。社協は市と似ていると思われる側面があると思うがどうか。

(前原委員)

社協にも用事があるから始めて来られるということが大半である。社協の情報を持っていないが故に来てくれないということが多い。そもそも来てくれないという発想もおかしいという見方もできる。効果的かどうか不明だが、過去にイオンの一階の掲示板に社協の事業案内や職員募集をしたところ、それを見て来られた方もいたので、目につくところの掲示板を活用することによって、知ってもらうきっかけになることはあると思う。

(石田委員長)

積極的な声掛けが行政からあれば、市役所に行きやすいが、そうでなければ中々行き辛いところもある。

(田中委員)

今回初めて HITOTSUNAGI の冊子を見た。色々なところに置いているのだろうと思うが、この1年間で私は見かけたことはなかった。市役所以外に置いている場所がわからない。私は民生委員をやっていて、独居老人宅を回っているが、情報がないので、1人でやっている状況である。広報の1ページにもこういう情報が載っていたら、元気に活動している人がいることに気づくことができるので、身近に感じると思う。

(石田委員長)

ホームページにも書いてあると思うが、興味がないとそこまでたどりつかないと思う。

(加藤委員)

高齢者でも携帯電話やパソコンなど持っていてホームページを見られる環境にはあると思うが、文字が小さいので見に行くことはしない。やはり広報紙に情報は掲載してほしいと思う。私は大和川の北側に住んでいて、生活圏が八尾市なので藤井寺市の情報は入ってこない。広報板が1箇所しかないので、せめてもう1箇所設置してもらいたいと思っている。自身の活動の報告であるが、ふれあい喫茶をやっていて、会員募集をしたところ、1年かかったが一人の方が来てくれた。地道な活動が大切だと思う。今はなんでも若い人と言うが、動けるのは私達の世代かなと思う。また若い人は個人主義が多いが、私たち世代は集団でやることが多い。私たちが頑張って若い人達に伝えるべきことを伝えないといけないと思っている。

(上田委員)

私も区長会はじめ、色々させてもらっているが、地域の人はそれぞれしたいことが多様化している印象を受ける。地区でもそうだが、やりたいことが皆違う。まとめるのに苦慮している。

(足立委員)

私も市民活動相談会に行ったことがあり、その時の印象で言うと、法人化を促していくような話になりがちだった。ほとんどのボランティア活動は個人で始めることが多く、ある程度人が集まって大きくなると法人化の話は出てこないと思う。相談会の事例が始めたばかりの人にはすごくハードルが高く、気軽に相談するのが難しいといった印象を受けた。

(石田委員長)

相談委託先の大阪 NPO センターが NPO 化を推進する団体だからかもしれない。

(足立委員)

もちろん法人化を目指すのは持続可能な団体運営上、間違った方向性の話ではないと思うが、個人の想いから始まった活動を法人化となるとレベルの高い話になる。当初からそこまで考えている人はほとんどいない。加藤委員が行っているような活動を見つけるといような場や、そういった人を増やすように、相談会も業者がいきなり話をするのではなく、役所の方や地域を理解している方々が最初に相談相手になるというやり方のほうが、結果的にいい方向性だと感じる。個人の想いを吸い上げるような場の提供が必要。また、市民活動という言葉自体に高いハードルを感じる。何か身近に感じる言葉に変え、参加のハードルを下げてみてはどうか。

(石田委員長)

市民活動のほか、ボランティアという言葉も今はハードルが高いかもしれない。役所の方は専門用語に慣れてしまっているが、市民にとっては理解し辛い部分もあると思う。かみ砕いた発信の仕方、別の言葉に置き換えるような努力も必要と思う。

(石田委員長)

これまで市が行ってきた取組み内容について意見いただいた。続いて今後どのようなことをすればいいのかということ議論したい。

(足立委員)

パブリックコメントの制度について、今、市で行われているパブリックコメントは計画などがある程度、形ができてから行われているように感じている。それだとあまり意見が反映されることがない。実施するタイミングがコントロールできるのであれば、まとめ上げられたものに対してどう思うか、という形ではなくて、それ以前の情報収集的なものとしてパブリックコメントを求めるというやり方にした方がいいと思う。市民の声を聞いているというアリバイ作りの印象を受けている。

(石田委員長)

市も出された意見は尊重してもらっていると思うが、予算を伴うものを変更するのは難しいと思う。パブリックコメントという名称を使うかどうかは別にして、制度当初から意見を聴くといった取組みがあってもよいと思う。

(事務局)

パブリックコメントの実施時期に関しては、計画等の決定期限等を考慮し、内容の修正等寄せられた意見を反映することが十分可能な時期に実施することとしている。

(津上委員)

先日、小学6年生の授業で藤井寺市に言いたいことと題して、子どもたちが思っていることを出し合って、意見をまとめる授業があった。アミューズメント施設やゲームセンターをつかってほしい、桜をまた植えてほしいといった意見も出たそうで、盛り上がった様子だった。子どもたちがグループで意見を出し合って話をまとめたというところはすごい授業をしているなと感じた。

(中辻委員)

まちづくりについて話し合う場は大事だと感じる。私もまちづくりについて語り合うという場をSNSで呼びかけて作ったが、こういう思いを持った人がいるというのがわかるだけでも意味はある。このまちへの親しみとか、楽しいまちにしていきたいなという気持ちがみんなを持ってたと思う。活動しているわけではないけど、少しまちづくりについて語り合おうというような会も意味があると思う。質問だが、保険制度の導入について、社協の行事保険との違いを教えていただきたい。また、HITOTSUNAGIは一回あたり何部印刷しているか。今後市長タウンミーティングはどういう形でしていくのか。

（事務局）

保険制度について、市民公益活動団体（シルミル団体）が活動中に怪我をした場合の保険制度を考えている。事前の届け出は必要なく、かつ掛け金は市で負担する。団体に負担のかからない形で実施していきたいと思う。

HITOTSUNAGIは4,000部を発行している。

タウンミーティングに関しては、令和6年度実績で言うと病院跡地の活用方法のタウンミーティングと商工会青年部とのタウンミーティングを実施した。令和7年度も既存の団体の会議に市長が出向いて、団体との意見交換をする事業を考えている。一年前にも若者を中心としたタウンミーティングの実施を試みたが、参加者が集まらなかった。わざわざ集まってもらうのがなかなか大変なので、先ほどの商工会であればその会議に出向き、ご意見を出してもらいたい形で実施した。ある程度ターゲットやテーマを絞って市長が行かせてもらうということを今後もやっていく方針である。

（中辻委員）

このまちのことを考えるっていうだけでも、町への愛着心が感じることができるし、少し集って顔を合わせて語り合うということは大事だと感じる。

（田中委員）

タウンミーティングを単体で実施するのではなく、大きなテーマを設けて、そこに人が集まるような仕組みにしてはどうか。神戸市では「デザイン都市・神戸」という枠組みでプロジェクトメンバーの参加依頼をしていた。名称一つでもどんなことをするかイメージが膨らむ。藤井寺市をデザインするといったイメージで大きなテーマを設けるのが良いと思った。

また、藤井寺市は市外に働きに行く人が多い。そういった人は市外のこともよく見ているので意見を聴くのに適していると思う。

（田中委員）

資料に記載の大阪府との協働事業とはどういったことか。

（事務局）

大阪府に費用を負担してもらい、交流会事業を行うものである。内容はまだ決まっていないが、今話が拳がった内容も参考にしながら、市民活動等、ハードルが高い表現はなしにして、実施していきたいと考えている。

（柳委員）

自治会の話だが、加入率が低下していつている。うちの地区でも55%~60%で悩んでいる。他の地区はどうか。

（石田委員長）

大阪市など都市部になると、町内加入率は50%を下回っている。また会費は払うけど、活動には参加しない人が圧倒的に多い。

（上田委員）

加入率が低い理由の一つに広報紙の配布を市が行ったことがあると思う。以前は自治会が配布しており、それが加入する動機の一つであった。地域のお祭りも協力する人が少なくなってきて、できなくなってきている。自治会の活力は本当に減少している。

（石田委員長）

協働というテーマはすごく難しいことだと思うが、大きなことをするよりも、小さなことをコツコツ積み上げていくのが大事だと思う。タウンミーティングはすごく意味があると思うし、事例があった SNS で声をかけたら何人か集まってきてくれるのはすごいことだと思うので、そういったことを積み上げていくのが必要だと感じる。最近市に対する意識や市民の人も変わってきたと実感するので、皆と一緒にコツコツと考えていきたいと思う。ということで今日の会はここまでする。

3 事務連絡

4 閉会